

国際労働者オリンピックアードと イギリスの運動

青沼 裕之

はじめに

- 1 国際労働者スポーツ運動の創始と展開
- 2 1925年フランクフルト労働者オリンピックアードの開催
- 3 1931年ウィーン労働者オリンピックアードの開催
- 4 1936年バルセロナ人民オリンピックアードの開催
- 5 1937年アントワープ労働者オリンピックアードの開催

まとめ

はじめに

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行（パンデミック）のもとで国際オリンピック委員会（IOC）は、東京オリンピック・パラリンピックの1年延期を決定した。しかし、この決定には以下のような問題が伏在している。詳細を省き問題点のみを指摘すれば、第1に、オリンピック憲章に謳われた競技大会の延期を、臨時総会の決定を経ずにIOC理事会で合意したこと、第2に、安倍首相がバッハ会長に直談判して延期を了承させたこと、第3に、アスリートの要望を聞くことなく決定したこと、第4に、以前から問題となっていた東京での夏開催が変更されなかったこと、である。

2021年夏にこの感染症が収束するという科学的根拠もないままに、安倍首相とバッハ会長とのトップ会談で開催延長に合意したことは、今後のオリンピック・パラリンピック運動に禍根を残したと言える。

オリンピック・パラリンピックをめぐる問題は今回に限ったことではない。1980年のモスクワ大会は、前年のソ連のアフガニスタン侵攻に抗議してアメリカを中心とする自由主義諸国がボイコットした。4年後のロサンゼルス大会は、その報復としてソ連を中心とする社会主義諸国がボイコットした。

オリンピック・ボイコットといえば、1936年のベルリン・オリンピック〔ナチ・オリンピックとも称された〕に反対する運動が、アメリカを起点としてヨーロッパ各国およびパレスチナで展開された。そして、この反対運動は反戦・平和、反ファシズムを旗印とするものであり、開催地をベルリンから移転することが叶わなくなった段階で、バルセロナ人民オリンピックアードの対抗開催へと

連なっていた。

今でこそ自由主義国では教育、芸術、スポーツに階級性、党派性を持ち込むことは忌避されるようになったが、第二次世界大戦前にはそうした思想と行動は厳然と存在し、様々な文化領域で労働者、社会主義、プロレタリアの冠のついた運動が展開された。筆者が研究対象としているイギリスでも、労働者教育協会、労働者旅行協会、労働者映画協会、統一劇場、レフトブック・クラブ等が活発に活動していた。スポーツの領域で言えば、労働者スポーツ運動がヨーロッパ諸国の中では小規模であったが、大戦後も1958年まで存続した⁽¹⁾。

しかし、これらの運動すべてが労働運動に労働者を獲得し、社会主義の宣伝をするための手段であったと短絡的に見てはならない。労働者のための文化（労働者文化）、労働者のための教育（労働者教育）、労働者のためのスポーツ（労働者スポーツ）などの運動は今も世界各国で継続されており、大戦前においても各国で労働運動を担う人々、社会主義者らが、労働者階級の文化・教育・スポーツ要求を実現することが重要であると考えていたのである。

以下に紹介する国際労働者オリンピックアードは、各国の労働者スポーツ運動が合流してくる国際的な一大イベントであったが、世界史の教科書に登場しない史実であるから、多くの方は初めて知ることになるだろう。国際労働者オリンピックアードがどのような目的で、どのようなプログラムで開催されたのか、それはどのような問題や課題をはらんでいたのか、を検討することは、そもそもオリンピック・パラリンピックは誰のためにあるのか、オリンピック・パラリンピックは如何にあるべきなのか、について再考するための示唆を与えるだろう。

そこで以下では、まずは、国際労働者スポーツ運動がいつ、どのように始まり、どのように推移したのかについて、①国際労働者オリンピックアードを主催した組織である社会主義労働者スポーツ・インターナショナル〔以下、社会主義スポーツインターと略す〕の設立の経緯、②社会主義スポーツインターを構成するイギリスの労働者スポーツ組織の結成に絞って概略する。次いで、③1925年にフランクフルトで開催された第1回国際労働者オリンピックアード〔以下、フランクフルト労働者オリンピックアードと略す〕、④1931年にウィーンで開催された第2回国際労働者オリンピックアード〔以下、ウィーン労働者オリンピックアードと略す〕、⑤1936年にバルセロナで開催準備されたが未発に終わったバルセロナ人民オリンピックアード〔以下、人民オリンピックアードと略す〕、⑥1937年にアントワープで開催された第3回国際労働者オリンピックアード〔以下、アントワープ労働者オリンピックアードと略す〕について、それぞれの開催経緯と趣旨、およびそれに関わったイギリスの運動について紹介する。

なお、労働者スポーツ運動は北アメリカ、ヨーロッパ諸国およびパレスチナに及び、研究の蓄積もそれらの国々で重ねられてきているため、筆者の能力では到底それらをカバーすることができない。この論稿は、そうした先行研究の一部とイギリスの文書館にある資料を利用して、労働者オリンピックアードおよび人民オリンピックアードの歴史の一端を示すものである。

国際労働者オリンピックアードは第二次世界大戦前に社会主義スポーツインター主催で計3回開催され、併せて冬季オリンピックアードも開催された。1936年の人民オリンピックアードだけは主催団体と性

(1) 拙著『イギリス労働者スポーツ運動史1923-58年』青弓社、2019年で、イギリスの運動の歴史的制約と誤り、成果と遺産について検討してあるので参照してほしい。

格が異なり、ベルリン・オリンピックに対抗するという独自の意味を持っていた。

さらに、本稿では扱えないが、赤色スポーツインターでは1928年に第1回スパルタキアード〔2月に冬季スパルタキアード（オスロ）、8月に夏季スパルタキアード（モスクワ）〕、1931年7月に第2回スパルタキアード（ベルリンで開催したが、禁止され、モスクワに移行）が開催された。また、各国でも全国的な労働者競技会が相次いで開催されていた。

1 国際労働者スポーツ運動の創始と展開

(1) 社会主義スポーツインターの設立経緯

詳細は後述するが、1923年にロンドンで労働者スポーツ運動を統括する全国組織としてイギリス労働者スポーツ連盟が結成されたことを受けて、イギリスの労働運動界も労働者のスポーツと娯楽に関心を示していく。労働組合運動の全国統括組織である労働組合会議（TUC）は、TUC総評議会と労働組合協議会⁽²⁾の代表からなる「労働組合協議会合同諮問委員会」を立ち上げて、この課題についての議論を開始した。同諮問委員会小委員会は1925年6月4日に会議を招集して、労働者スポーツの組織化の問題全体について議論した。この小委員会には同諮問委員会を代表してハーバート・エルヴィン（議長、TUC総評議会の代表）、J・J・ヴォーガン（労働組合協議会の代表）、ヴィンセント・チューソン（委員会の書記）とともに、トム・グルーム（イギリス労働者スポーツ連盟書記）とジョージ・ベネット（イギリス労働者スポーツ連盟ロンドン・グループ）が出席した。

会議冒頭で議長のエルヴィンがグルームにイギリス労働者スポーツ連盟のこれまでの活動について述べるように求めた。それに応じたトム・グルームの報告を同諮問委員会の会議録から以下に引用する。彼の報告から、イギリス労働者スポーツ連盟が結成される前提となった社会主義スポーツインターの設立経緯が理解できる。

グルーム氏が述べるには、イギリス労働者スポーツ連盟が存在できているのは国際運動のお陰であったのだから、まず第1に国際運動の概略を述べることに、並びに、そうした関係を構築し得たのは「全国労働者イギリス・スポーツ委員会」宛に1912年にフランスから出された手紙を受け取った結果であることを示すこと、が賢明であると考えた。彼は、その時の手紙の記載内容に当てはまる唯一の組織であるクラリオン・サイクリングクラブに道を見出していた。彼はその理念の可能性に惹かれ、1913年にアントワープ〔ベルギーの都市—引用者注〕で開かれる国際労働者スポーツ連盟の会議に彼を派遣するようクラブに同意させた。その折りに「スポーツを通じて国際的友愛を」が決議された。規約を立案するために小委員会が選出され、その小委員会は1914年1月にブリュッセルで会合を持ち、ドイツ、フランス、ベルギーおよびイングランドの代表が参加した。規約は立案され、その際、当面の問題はブリュッセルの国際事務

(2) 労働組合協議会は、1850年代末から60年代に主要地域に設立された地域ごとに職種や産業をこえた労働者の団結の組織であり、労働組合会議（TUC、労働運動の統括団体）設立に寄与したイギリス労働運動にとって重要な組織的勢力であった〔富沢賢治『労働と国家——イギリス労働組合会議史』岩波書店、1980年、43-46ページ〕。

局に任された。国際事務局は支持する国々に手紙で提案を知らせた。国際会議が1914年9月に開催されることとなったが、大戦の勃発によって妨げられ、それは1918年に開催された。その時はフランス、ベルギー、イングランドのみが代表を送った。1920年のルツェルン〔スイスの都市－引用者注〕での会議には、8ないし9ヶ国が代表を送り、規約が採択された。基本理念はスポーツが戦争に代わることであった⁽³⁾。

以上の引用から社会主義スポーツインターの設立経緯の概略は理解できたと思うが、若干の背景説明と注釈が必要であろう。

まずは、社会主義スポーツインターの設立は国際的な社会主義運動の流れの中に起こった現象であり、さらに第一次世界大戦に連なるような第一次バルカン戦争の勃発、英独間の軍備拡張競争、等々に反対する世界人民の運動に連帯するものであったことである。その上、社会主義スポーツインターの設立と直接関わりはない⁽⁴⁾が、社会主義政党の国際組織である第2インターナショナルが第一次世界大戦を支持する多数派と反戦主義者の少数派に分裂したという経緯があったので、終戦直後に反戦の思いが一層強まっていたことがある。

第2に、1913年のセントに集まったドイツ、フランス、ベルギー、イングランド⁽⁵⁾の国々では、すでに国内に労働者スポーツ組織が結成されており、国際組織設立のイニシアティブを取ることができる状況にあった。ただし、1920年のルツェルンでの国際組織結成にあたっては、敗戦国ドイツの組織は参加していない。イギリスでは、1894年2月にバーミンガムで結成されたクラリオン・サイクリングクラブ〔結成当初は、社会主義サイクリングクラブと称した〕の代表としてトム・グループが出席している。

既述の国際組織は設立の地名をとってルツェルン・スポーツインターナショナルと呼称されるが、1928年に社会主義労働者スポーツ・インターナショナル〔社会主義スポーツインター〕へと改称された。社会主義スポーツインターは、1921年7月にモスクワで革命派労働者スポーツマンのイニシアティブで結成された赤色スポーツ・インターナショナル⁽⁶⁾〔以下、赤色スポーツインターと略す〕と異なり、政党政治的中立性の原則のもとにスポーツと身体文化の分野で社会主義運

(3) 前掲拙著、33ページ。

(4) フランツ・ニツチュによれば、社会主義スポーツインター設立時に社会主義政党は特別な関わりを持たず、両者の関係が作られてくるのは1920年代末からとしている〔Franz Nitsch, 'Die Internationalen Arbeitersportbewegungen', In A. Krüger/ J. Riordan (Hrsg.), *Der Internationale Arbeitersport*. Köln 1985. フランツ・ニツチュ「国際労働者スポーツ運動」, 上野卓郎編訳『論集 国際労働者スポーツ』民衆社, 1988年, 238ページを参照〕。

(5) 第二次世界大戦前のイギリスはグレート・ブリテンおよびアイルランド連合王国と呼称され、イングランド、スコットランド、ウェールズ、アイルランドから構成されていたが、本稿では慣用的に総称をイギリスとし、個別にはイングランド、スコットランド等を使い分けることにする。

(6) 赤色スポーツインターは1921年7月22日モスクワで開催された共産主義インターナショナル（コミンテルン）第3回世界大会の折に設立された。その当時、ロシア共産党もコミンテルンも国際的なスポーツ組織の設立に利害関心を持っておらず、その時モスクワにいたブルーノ・リースケラの革命派労働者スポーツマンがイニシアティブを取って国際組織を設立させたのである。ただし、設立当初の赤色スポーツインターは、労働者スポーツをプロレタリア革命に奉仕させることとともに、ルツェルン・スポーツインターナショナルに対抗するイデオロギー的センターという機能しか持たず、具体的な活動を始めるのは1930年代を待たねばならなかった〔上野卓郎編訳、前掲書、248-266ページを参照〕。

動の目標達成に貢献しようとする国際組織であった。しかも、ブルジョア・スポーツ組織との交流を厳格に拒否する方針を掲げていた⁽⁷⁾。

因みに、1933年にドイツでナチスによって、1934年にオーストリアでドルフースの祖国戦線によって、社会主義スポーツインター加盟の労働者スポーツ組織が解散させられるが、それ以前の1929年の会員数がわかっているため以下に示す。ドイツとオーストリアの会員数が突出していたことがわかる。

総勢で18カ国、23組織、1,699,512人の会員を抱えていた。内訳は、アメリカ（ニューヨーク）：539人、ベルギー（ブリュッセル）：10,315人、ドイツ（ベルリン）：1,119,521人、デンマーク（コペンハーゲン）：20,000人、イングランド（ロンドン）：4,000人、エストニア（タリン）：340人、フィンランド（ヘルシンキ）：37,223人、フランス（パリ）：4,002人、フランス（ストラスブール）：13,550人、オランダ（アムステルダム）：4,047人、ユーゴスラヴィア（ライバツハ）：1,800人、ラトビア（リガ）：4,016人、オーストリア（ウィーン）：272,795人、パレスチナ（エルサレム）：5,190人、ポーランド（ポーランド人同盟、ワルシャワ）：10,000人、ポーランド（ユダヤ人同盟、ワルシャワ）：3,854人、ポーランド（ドイツ人同盟、ホーエンシュヴァンガウ）：2,790人、ポーランド（ウクライナ人同盟、レンベルク）：4,095人、ルーマニア（ブカレスト）：2,862人、スイス（ベルン）：23,086人、チェコスロヴァキア（チェコ人同盟、プラハ）：106,425人、チェコスロヴァキア（ドイツ人同盟、エルベのアウシヒ）：47,912人、ハンガリー（ブダペスト）：1,150人⁽⁸⁾。

（2）イギリス労働者スポーツ運動の組織化

1923年4月5日にロンドンの労働者政党、労働組合、労働者スポーツ組織の代表が集まった会議において、クラリオン・サイクリングクラブ代表のトム・グルームの提案により、満場一致でイギリス労働者スポーツ連盟を設立することが承認された。

その後、1928年4月のイギリス労働者スポーツ連盟全国総会（バーミンガム）でジョージ・シンフィールドを全国書記とする共産主義的指導部が選出されると、即座に労働党執行委員会はロンドン労働党に別の労働者スポーツ組織を設立するよう命じた。結成された組織は「ロンドン労働党スポーツ協会」と称し、最初はまったく目立たない存在であった。その後、労働組合会議（TUC）もイギリス労働者スポーツ連盟とは別の労働者スポーツ組織の設立を望み、労働党執行委員会と協議をおこなった。1930年1月に入って、ロンドン労働党とロンドン労働組合協議会はTUCの加盟組織やロンドン労働党スポーツ協会に書簡を送り、新たな全国的スポーツ組織を結成するための会議の開催を知らせた。

1930年2月20日夜、ロンドンの運輸会館で設立会議が開かれ、全国労働者スポーツ協会が設立されることになった。この会議において、ロンドン労働党スポーツ協会が全国労働者スポーツ協会

(7) 上野卓郎編訳、前掲書、238ページを参照。

(8) Arbeiterbund für Sport und Körperkultur in Österreich (Hrsg.) : *Festschrift zur 2. Arbeiter-Olympiade : Wien 1931*, Wien 1931, S. 55 [https://www.digital.wienbibliothek.at/wbrobv/content/titleinfo/2596780 - 2020年4月7日検索].

の加盟組織に位置づけられ、書記長にジョージ・エルヴィンが選出された。トム・グルームとジョージ・ベネットが執行委員会に加えられた。

1936年4月18日の全国労働者スポーツ協会第6回年次総会において、会員資格が若干緩和されるとともに、イギリス労働者スポーツ協会へと名称変更をおこなった。この背景には、1935年末に既述の別組織であるイギリス労働者スポーツ連盟が解散したことによって、全国労働者スポーツ協会がイギリスで唯一の労働者スポーツの統括組織となったことがあった⁽⁹⁾。

2 1925年フランクフルト労働者オリンピックの開催

1925年当時のドイツの政治状況は国際労働者オリンピックを開催するのにふさわしかった。第一次世界対戦終了後にドイツ社会民主党が主導して1919年1月に共和国政府を樹立し、7月末には大統領の権限の強い共和制、ドイツ帝国諸邦を基にした州による連邦制、基本的人権の尊重が定められたヴァイマル憲法が採択され、8月11日に公布された。つまり、1925年のフランクフルトは、社会主義スポーツインターの活動を支援する社会民主主義政権下にあったわけである。

フランクフルト労働者オリンピックについては、フランツ・ニッチュの論稿に依拠して紹介したいと思う。

フランクフルト労働者オリンピックは1925年7月24日から28日まで、新しく建築された40,000人の観衆を収容できるヴァルト・スタディオンで開催された。ヴァルト・スタディオンは1925年5月21日に落成式がおこなわれ、労働者オリンピックをもって、その最初の国際的な大きな行事を経験することになった。

フランクフルト労働者オリンピックは以下の国々からの1,100人の競技者の入場とともに開始された。イングランド、フィンランド、チェコスロヴァキア、スイス、ラトヴィア、オーストリア、ベルギー、パレスチナ、ポーランドおよびドイツであった。

開会式に続いて、陸上競技、フットボール、力業を競うスポーツと水泳で競技が開始された。翌日、競技会には自転車競技、体操、体操演技、ボート競技、射撃が加わった。夕方には全体での歓迎がなされ、その時の祝典会場や小広場には50,000人の参加者がやってきた。1,200人の労働者歌手たちが催し物の前後に花を添えた。

祭典の式辞では、労働者オリンピックの主目的である「戦争はごめんだ」が国民的合意として示された。本祭日である日曜日には陸上競技の開催と並んで、集団徒手体操、ページェント、そして夕刻の奉納劇「地上の闘い」がおこなわれた。フランクフルト市の中心部を通る「諸国民のページェント」は、鼓笛隊400人の太鼓奏者と管楽器奏者によって指揮されていた。ページェント参加者は、「帝国主義戦争を止めよ」「戦争はごめんだ」「1日8時間労働のための闘い」と記された旗を掲げていた。スタディオン入口には大きな活字で「酒持ち込み禁止」と記されていた。旗が飾られた市の中心部には1万人の見物人が押し寄せた。

月曜日には射的スポーツ競技と自転車スポーツ競技がおこなわれた。その上、新しい部門の競走

(9) 前掲拙著、26, 143-144, 153ページ。

スポーツと 18 の自転車曲芸が選抜チームに加わった。テニスとチェスのトーナメントの決勝がおこなわれた。力業を競うスポーツでは、レスリング、重量挙げ、ボクシング、綱引きが数種の階級に分かれて実施された。

労働者オリンピックは火曜日に閉会した。最終日、スタディオンでは陸上競技、トゥルネン、フットボールの決勝戦がおこなわれた。5,000 人の参加者を伴うフランクフルト市中での児童祝祭行列は、スタディオンでの徒手体操と児童演技をもって終了した。すべての国からの成人男性の集団ピラミッドと女性スポーツマンの感動的な平和集会をもって第 1 回労働者オリンピックは閉幕した⁽¹⁰⁾。

ニツチュによれば、フランクフルト労働者オリンピックの特徴として、第 1 に、陸上競技と力業を競うスポーツの競技会でフィンランド人が優勢であり、ブルジョア・スポーツに比肩しうる能力水準にあったこと、第 2 に、体操の多種目競技、チーム競技および体操演技でドイツ労働者体操・スポーツ同盟の指導的役割が認められたこと、第 3 に、多くの国々の労働者スポーツ組織の活動がこの時はまだ始まったばかりであったので、水泳、高飛び込み、水球、ボートおよびカヌーの競技ではドイツ人が一部で競争相手のない状態であったこと、第 4 に、チェコの労働者スポーツにとって、ボクシングやフットボールのような競争は重視されていなかったこと、を記している⁽¹¹⁾。

イギリス労働者スポーツ連盟の代表も参加したが、詳細はわからない。

フランクフルト労働者オリンピックに先だて、第 1 回冬季オリンピックが 1925 年 1 月 31 日から 2 月 2 日までシュライバーハウ（チェコとポーランドの間の山脈）で開催された。

3 1931 年ウィーン労働者オリンピックの開催

ウィーン労働者オリンピックについては、ラインハルト・クラマーの論稿に依拠して紹介したいと思う。

1931 年 7 月 19 日から 27 日までの労働者祭典文化の新しい基準を設けたことで、ウィーンにおける労働者オリンピックはまさしく巨大な輪郭が現れることになった。すなわち、77,166 人の祭典参加者——オーストリア人は 37,000 人以下——および全体としておよそ 20 万人の観衆がスポーツ開催地を満たした。

スポーツマンの宿泊所は学校と居住地にある労働者家庭に置かれた。労働者オリンピックは伝統的な労働者祭典のはるかに信頼できる手本に従った。政治的な情報——参加者の前で社会主義スポーツインター会長のユリウス・ドイチュ、ウィーン市長のカール・ザイツ、共和国首相のカール・レンナーが非常に政治的な挨拶をおこなった——が、理解し合える楽しい集いで、またスポーツ競技で交換された。ほとんどすべて労働者スポーツマンが出場するスポーツ種目では練習試合がおこなわれ、ブルジョア・スポーツ実践の遺産を改良したものとして、6,000 人の男性トゥルナーと 5,000 人の女性トゥルナーによる集団演技が計画された。新たにスポーツ射撃と軍事スポーツ競

(10) Franz Nitsch : 'Wir erlebten, wie Frieden sein kann'. In H. J. Teichler und G. Hauk (Hrsg.) : *Illustrierte Geschichte des Arbeitersports*, J.H.W.Dietz Nachf. Berlin 1987, S. 203-206.

(11) *Ebenda*.

技がプログラムに加わった。ウィーンのスタジアムでの大規模な集団祭典演技では、4,000人のオーストリアの労働者スポーツマンがプロレタリアートと労働者運動の発展の歴史を演じた。資本主義の必然的な没落が、スタジアムに建設された「偶像の資本主義」の倒壊によって象徴的に表現された⁽¹²⁾。

ウィーン労働者オリンピックが開催された当時のウィーンの状態はどのようであったのか、クラマーは以下のように記している。

オーストリア社会民主党はこの時期には、自ら勇気を駆り立てるための十分な理由があった。1930年5月に護国団は、キリスト教社会党に近い立場にある準軍事的な組織の右翼であることを厳粛に宣誓したが、それは西欧の民主的議会主義と多党制国家を打ち砕き、独裁的な身分制国家を樹立しようとするものだった。また、国境の向こう側への眼差しにも良くない予感があった。つまりそれは、ファシズムが支配するイタリア、保守的なホルティ体制のもとでのハンガリー、そして前進を続ける国民社会主義のドイツであった。労働者スポーツの大祭典は明確な政治的な予兆となるものだった⁽¹³⁾。

上野卓郎の論稿にも示されたように、こうしたウィーンを取り巻く国内外の右傾化、ファッション化のもとで、ウィーン労働者オリンピックでのユリウス・ドイチュ会長の挨拶では「諸民族合意への信奉、世界平和のためのデモンストレーション、ファシズムに対する示威としてのオリンピックの政治的意義」が強調された⁽¹⁴⁾。

当時のウィーンの状態について若干の補足しておく。第一次世界大戦の結果オーストリア＝ハンガリー帝国が崩壊した後の1918年11月12日、第一共和国が成立。第一共和国はカール・レンナー保革連合政権で幕を開け、8時間労働制や雇用保険制度の導入等によって民主的な政権運営を進めていたが、連合政権の一翼を担う保守のキリスト教社会党の政策変更によって1920年に連合政権が崩壊し、社会民主党の力は弱まっていき、1934年以降は地下活動を余儀なくされた。

しかし、1919年の選挙で社会民主党が絶対多数を得たウィーン市では、1934年まで同党による統治が続き、ウィーンは社会民主主義政治の輝ける実例であり、ヨーロッパ全体から見ても際立ったものであった。それ故、1930年代初頭のウィーン市はキリスト教社会党の共和国政府との緊張関係のもとに市政運営にあたったのである。

ウィーン労働者オリンピック開催5ヶ月前の2月5日から8日までミュルツツシューラク（オーストリア北部シュタイアーマルク州の市）で第2回冬季オリンピックが開催された。

イギリスにおいては、設立されて間もない全国労働者スポーツ協会の最初で最大の行事が、ウィーン労働者オリンピックへの参加であった。1931年6月20日にロンドンのクリスタル・パレスで全国スポーツ大会が開催され、そこで選抜された競技者たちがウィーン労働者オリンピックへ派遣された。28名の競技者チームは参加国中最小のものであったが、「異例にも4位の成績で

(12) Reinhard Krammer : 'Der ASKÖ und die Wiener Arbeiter-Olympiade 1931'. In Hans Joachim Teichler und Gerhard Hauk (Hrsg.) : *a.a.o.*, S. 221.

(13) *Ebenda*, S. 207.

(14) 上野卓郎「赤いウィーン労働者オリンピック1931年」『一橋大学スポーツ研究』29, 2010年, 26ページ。
Julius Deutsch : 'Die Arbeitersport-Internationale', In Askö (Hesg.) : *Festführer : 2 Arbeiter-Olympiade der sozialistischen Arbeiter-Sportinternationale*, Wien, Juli 1931, S. 6.

終えることができて満足であった」と1931年の『労働党年次報告書』に記されたように、かなりの競技水準にある労働者が派遣された。因みに、派遣チームの構成は、陸上競技11名（うち女性2名）、自転車競技6名、水泳6名、テニス4名（うち女性2名）であり、結果は1位が7つ、2位が8つ、3位が5つであった⁽¹⁵⁾。

4 1936年バルセロナ人民オリンピアドの開催

先ずは、当時のスペインおよびカタロニアに関する注釈が必要であろう。1931年のスペイン革命によって王政が倒れ、共和国が成立した後、共和派、農民・労働者・知識人は当時のソ連を理想として社会主義政権発足を目指した。当時スペイン国内に散在していた共産党をはじめとする社会主義政党が結束して、1936年2月16日の総選挙で右派を抑えて勝利し、挙国一致内閣を成立させた。スペイン人民戦線内閣と称される。しかし、1936年の人民オリンピアド開催日前日の18日未明にフランコの反乱によってスペイン内戦が始まり、ナチス・ドイツとファシスト・イタリアの支援を受けたフランコ軍によって1939年3月に共和国は解体された。

一方カタロニアでは、1931年にスペインで共和政が成立すると自治政府が発足し、1932年にはカタロニア自治憲章が承認され、マシアが初代首相に就任した。スペイン人民戦線内閣のもとで、1936年7月半ばまでカタロニア自治政府は自立的な政治を展開できたのであった。

(1) 国際フェアプレー委員会パリ国際会議

1936年8月1日から2週間にわたって開催されるベルリン・オリンピックに向けて、ベルリン・オリンピック組織委員会が、国際オリンピック委員会（IOC）が定める「オリンピック憲章」に違反してユダヤ人や黒人の競技者をドイツ代表から排除し、ユダヤ人等の迫害政策を進めているという理由から、世界各国で反対運動が持ち上がった⁽¹⁶⁾。

こうした各国での反対運動を国際的に束ねる形で「オリンピック理念擁護国際委員会」〔国際フェアプレー委員会〕が1935年12月6～7日にパリで開かれた集会で結成され、その国際会議が、フランス労働者スポーツ・体操連盟の献身的な努力により、翌年の6月6～7日にパリで開催された。パリ国際会議には、フランス、イギリス、スペイン、カタロニア、アメリカ、チェコスロヴァキア、ベルギー、スイス、オランダ、スウェーデン、デンマークからの代表と赤色スポーツインターと社会主義スポーツインターの代表が参加した⁽¹⁷⁾。

本稿との関係で注目すべきは、パリ国際会議でバルセロナ人民オリンピアド組織委員会代表の

(15) 前掲拙著、151-152ページ。28名の競技者と派遣チームの構成メンバー総数27名と異なっているが、この理由は不明である。

(16) イギリスのベルリン・オリンピック反対運動については、拙著『ベルリン・オリンピック反対運動——フィリップ・ノエル＝バーカーの闘いを辿る』青弓社、2020年を参照。

(17) International Conference of Adversaries of the Hitler Olympiad and Friends of the Olympic Movement. Minutes, 6-7th June 1936 [Peoples' History Museum : CP/ORG/MISC/6/5]. この英文資料からわかるように、国際フェアプレー委員会パリ国際会議は、「ヒトラー・オリンピアドの敵手とオリンピック運動の友の国際会議」とも称されていた。

アンドレス・マルチンとカタロニア政府代表のジャウマ・ミラビジャスが、人民オリンピックアードの開催の意義と組織状況について語っていたことである。

ミラビジャスは次のように述べる。

人民戦線の勝利の後、我々はわが国で人民スポーツ運動を組織した。我々はカタロニアで輝かしい成果を獲得しており、人民運動を基礎として、我々はスポーツの分野でファシズムを打ち破るであろう。この基礎のうえに、人民オリンピックアードはバルセロナで挙行されるであろう。人民オリンピックアードの名誉ある委員会を構成しているカタロニア政府は、その準備のために多額の補助金を与えることを決定した。議会の社会党と共産党のフラクションは、政府にベルリン大会のためのクレジットを拒絶するよう要求し、その時議会の大統領であったアサーニャ氏は、この要求を大変共感をもって受け入れた。あらゆる可能な手段をもって、バルセロナでの人民オリンピックアードを支援する約束が政府によって果たされる⁽¹⁸⁾。

このミラビジャスの発言からは、バルセロナ人民オリンピックアードがカタロニアの運動の成果であったことが理解できる。

また、マルチンは組織状況を次のように語る。

我々はバルセロナで人民オリンピックアードを組織しつつある。我々は現在すでに、ボクシング、フットボール、バスケットボール、ラグビー等々の連盟、社会主義政党、大学スポーツ連盟、カタロニアの若いスポーツマン、労働組合と労働者スポーツ組織、同様にいくつかの小さなスポーツ連盟の参加を確保している⁽¹⁹⁾。

(2) イギリス労働者スポーツ協会による代表派遣

国際フェアプレー委員会のパリ国際会議が終了した翌日の6月8日に、早くも組織委員会から、「人民オリンピックアードは今や今年の国際スポーツにおける唯一最大の示威運動である」と記載された『バルセロナ人民オリンピックアード・プレスサービス』第5号が世界各国に向けて発送された。これを受けて、イギリス労働者スポーツ協会は合同書記ジョージ・エルヴィンとH・R・アンダーヒルの連名で、6月9日にイギリスの諸組織に向けて「通信」(プレス・インフォメーション)を発行した。「通信」には人民オリンピックアードの「目的は、記録上の偉業を望みはしないが、国家間の平和と協力というオリンピック精神を擁護しようという人民スポーツ祭典をもって、ベルリン

(18) *Ibid.*, 7th June 1936, pp. 3-4.

(19) *Ibid.*, p. 13. 近年、カタロニアの諸資料を渉猟して英文で書かれた歴史書『人民戦線とバルセロナ 1936 人民オリンピック』が出版された。著者は、サンディエゴ・メサ・カレッジの世界史の臨時教授ジェームス・スタウトである。筆者はざっと目を通しただけだが、スペイン本国の動向が詳細につかめるものと思われる [James Stout, *The Popular Front and the Barcelona 1936 Popular Olympics : Playing as if the World Was Watching*, Palgrave Macmillan, 2020]。

大会の効力に対抗することである」と表明されていた⁽²⁰⁾。

イギリス労働者スポーツ協会の「通信」を受けてクラリオン・サイクリングクラブは素早く反応する。6月12日と13日の両日に開かれた全国委員会で、「バルセロナへサイクリストを派遣するための招待状が読み上げられ、もしイギリス労働者スポーツ協会が代表チームを派遣するのであれば、全国クラリオン・サイクリングクラブはバルセロナへ1人以上のサイクリストを派遣する」ことを決定した⁽²¹⁾。

6月15日付のイギリス労働者スポーツ協会の「通信」では、新たな展開が見いだせる。「通信」は次のように伝える。「組織委員会はイギリスの陸上競技者とボクサーに会うことを望んでいるので、その他の競技者も歓迎されるが、我々は先ずこのことに集中するであろう。(略)オリンピックは記録を更新しようと努めるものではないけれども、(略)組織委員会は100メートル競走では少なくとも10秒6で走ることが期待されると報告している。これはオリンピックを通じて期待される水準を示している」と⁽²²⁾。

この10秒6という記録はかなりハイレベルなものであった。対抗するベルリン・オリンピックの100メートル競走で優勝したジェシー・オーエンス（アメリカ）が10秒3であったから、記録更新は望まないとしても、やはり記録でもベルリン・オリンピックに対抗しようとしたのであろう。

では、どうしてこのハイレベルな100メートル競走にイギリス人競技者の参加が望まれたのであろうか。それは、おそらく1931年のウィーン労働者オリンピックのときに、イギリス人競技者が10秒8で優勝していたからであろう。今回も、イギリス労働者スポーツ協会が主催したイギリス各地での220ヤード競走の優勝者が名を連ねることになった。

ボクシングの事情はよくわからないが、一つ言えることは、人民オリンピックで陸上競技、水泳、チェスとともにボクシングでの一流のファイトが期待されていたことである。特にスペインの公認チャンピオンが全員参加することになっていたから、その期待は一入であった。

「バルセロナ人民オリンピックのための組織委員会」の見出しのあるイギリス労働者スポーツ協会の6月24日付「通信」は、「オリンピックの開会の日程が7月22日から19日に繰り上げられた」ことを伝えている。また「通信」は、イギリス代表に選抜される競技者を紹介した後に、「イギリス労働者スポーツ協会、すなわちイギリス・チームのための組織委員会は、わが国からのチームの範囲を拡大するための財源を訴えた。より多くの資金が必要である。それを使って我々は50名もしくはそれ以上の競技者に広げるであろう」と記し、間近に迫った人民オリンピックへ拡大したチームを派遣するための寄付を訴えている⁽²³⁾。

(20) George H. Elvin and H. R. Underhill (BWSA Joint General Secretary), BARCELONA POPULAR OLYMPIAD. PRESS INFORMATION, 9th June 1936 [MRC/MSS.292/808.91/4].

(21) Minutes of National Committee Meeting of CCC held at Valley House, Cheshire, 12th and 13th June 1936 [Manchester Central Library. Local Study Unit : 061/i/2].

(22) British Workers' Sports Association, BARCELONA PEOPLE'S OLYMPIAD. PRESS INFORMATION, 15th June 1936 [MRC/MSS.292/808.91/4].

(23) British Workers' Sports Association. Organising Committee for Team for Barcelona People's Olympiad. PRESS INFORMATION, 24th June 1936 [MRC/MSS.292/808.91/4].

以上のように、短期間の内にチーム派遣の準備や問題の解決もなされ、最終的にイギリス代表チームは、18名の男子陸上競技者と7名の女子陸上競技者、6名のローンテニス・プレーヤー、5名のサイクリスト、2名のスイマー、2名のチェス競技者、1名のボクサーの計41名の競技者の他に、4名のバグパイプ奏者、E・C・ハーディングとジェフリー・ジャクソンの随行者兩名、マネージャーのジョージ・エルヴィンとマネージャー補佐のH・R・アンダーヒルを含む総勢49名となり、20名の旅行者とともにドーバー海峡を渡った⁽²⁴⁾。

発案されてから2、3ヶ月の間に、各国で急遽参加準備が進められてきた人民オリンピックアードであったが、残念ながらこの催しはスペイン国内へのフランコの反乱の拡大により未発に終わった。

7月17日金曜日にバルセロナへ向けてロンドンを発ったイギリス代表チーム一行は、スペイン内戦が始まってからも数日バルセロナ市街に滞在した。その間の行動を『レイバー』（1936年8月号）がごく簡単に伝えているので、そのくだりを引用してこの節の結びとしたい。

イギリス労働者スポーツ協会チームは2つの示威行動に参加した——最初のもの、火曜日（7月21日）に他のチームと一緒に通り中を大パレード。スコットランド人のバグパイプ奏者がイギリス・チームを先導し、スタジアムへの道程は通りに整列した数万人の労働者によるどろき渡る拍手喝采が伴奏した。2つ目は、我々の旅立ちの朝に行われた。その時すべてのチームが、ファシスト反逆者を皆から追い払うためにサラゴサへ行っていたバルセロナの労働者たちを出迎えた。再び我々は注目すべき歓迎を受け、労働者兵士が出発した後、数千の観衆に対して通りで示威運動が起こされた。外国のスポーツ指導者のほとんどが、ジョージ・エルヴィンも含めて、グレート・ブリテンのために語った⁽²⁵⁾。

5 1937年アントワープ労働者オリンピックアードの開催

アントワープ労働者オリンピックアードは、社会主義スポーツインターが主催する第3回目の国際スポーツ祭典となるものであった。第1回目が1925年にフランクフルトで開催され、第2回目が1931年にウィーンで開催されていたが、1937年7月25日から8月1日にかけてアントワープで開催されたこの労働者オリンピックアードが、社会主義スポーツインターの主催する最後のものとなった。アントワープ労働者オリンピックアードへの取り組みは、1930年代後半の社会主義スポーツインター最大の活動であって、何年にもわたって準備が進められ、ナチスの出現のもとでは反ファシズム・スポーツ祭典という性格も併せ持った国際スポーツ祭典であった。

この国際的な催しには、イギリス労働者スポーツ協会も相当に力を入れていた。大陸から離れた島国での、しかも2万数千人の小さな組織にとって、大陸諸国の労働者スポーツ組織や労働者スポーツマンとの交流を図ることは大きな励みになったのである。

(24) *Daily Worker*, 14th July 1936, p. 6.

(25) H. R. Underhill, 'Workers at Play', *Labour*, August 1936, p. 311.

（1）ソ連と赤色スポーツインターの招待問題

ところで、社会主義スポーツインターにとって、アントワープ労働者オリンピックを開催するに当たって解決せねばならない問題があった。それは、労働者オリンピックにソ連と赤色スポーツインターを招待するかどうかという問題であったが、この問題の背景には、ファシズム勢力の台頭と脅威のもとでの2年間にわたる社会主義スポーツインターと赤色スポーツインターとの共同・統一への交渉という組織問題があったのである。

1935年3月以来、ほぼ1年間で数回に及ぶ社会主義スポーツインターと赤色スポーツインターとの交渉がおこなわれたが、両者の間にはイデオロギー対立とともに目標や戦術の違いがあり、はかばかしい前進はみられなかった。そして、1936年5月15日にブリュッセルで、国際労働組合連盟書記長ウォルター・スケヴネルス、労働者社会主義インターナショナル会長フリードリヒ・アドラー、社会主義スポーツインター書記長のジュール・デヴリーガーによる協議がおこなわれ、次のことが確認された。すなわち、「ここでロシア、ノルウェー、フランス、スウェーデンをゲストとしてのみ招待することが決められた。我々の連盟が存在する国での共産主義少数派が招待されるのは、我々の連盟がそれを了解すると言明するときである」と。ここで注目すべきは、労働者オリンピックへの各国組織の招待という労働者スポーツ固有の問題を、国際的な労働組合と社会主義政党的統括組織との合同協議に委ねたことである。上野卓郎氏は、これを社会主義スポーツインターの「自主性の放棄」としている⁽²⁶⁾。

その後、1936年8月29～30日に社会主義スポーツインターはアントワープで第7回総会を開催し、主にアントワープ労働者オリンピックとそれに先行するチェコスロヴァキアのヨハニスバードでの第3回冬季オリンピックの開催（1937年2月18～21日）に関わって、そこにソ連と赤色スポーツインターの代表を招待するかどうか、を話し合った。この総会にはイギリス代表も出席しており、イギリス代表はオランダ代表とともに、ソ連とは交渉するが赤色スポーツインターとは一切交渉しないよう提案した⁽²⁷⁾。

一貫してイギリス労働者スポーツ協会議長のハーバート・エルヴィンは、国際労働組合連盟の決定に従って赤色スポーツインターとの交渉に反対であり、しかし労働者が主権を持つ国ソ連の赤色労働組合スポーツ運動とは交流を図りたいという要求を持っており、それはTUC総評議会の意向でもあった⁽²⁸⁾。ハーバート・エルヴィン自身、長年にわたり全国事務員組合の書記長であり、また1938年にはTUC会長を務めた労働組合運動のリーダーでもあったから、労働組合運動への労働者スポーツ運動の従属の関係には何の矛盾も感じなかったのである。ハーバート・エルヴィンを代表とするイギリス側の意向は、社会主義スポーツインターの決定に最右翼の立場から影響を及ぼした。

(26) アントワープ労働者オリンピックへのソ連と赤色スポーツインター加盟組織の参加基準を定めたブリュッセル協議の内容については、上野卓郎「1930年代二つのスポーツインターナショナル関係史（Ⅱ）」『一橋大学研究年報 社会学研究』第39巻、2001年1月、91ページを参照。

(27) 社会主義スポーツインターアントワープ総会の詳細についても、上野、同上書の78-97ページを参照。

(28) Trades Union Congress General Council, Inter-Departmental Correspondence : Letter from A. E. Carthy to H. V. Tewson, 16th November 1936 [MRC/MSS.292/808.4/6].

(2) 公式プログラムと宣言文

TUC 総評議会がアントワープ労働者オリンピックへのイギリス代表団の派遣を支援する決定を下して2ヶ月後の1937年4月22日、イギリス労働者スポーツ協会合同書記ジョージ・エルヴィンからTUC総評議会広報部宛にオリンピックの公式プログラムの写しが届けられた。ジョージ・エルヴィンはプログラムの写しを同封した手紙で、プログラムが労働組合雑誌に掲載されることに感謝している。公式プログラムは、下記のような宣言文で始まり、その後に「旅程」「費用」「一般情報」「パリ・スポーツ大会(8月4～8日)」「競技日程」「スポーツ・プログラムの詳細：陸上競技／バスケットボール／ボクシング／チェス／サイクリング／フットボール／ハンドボール(女子)／水泳／卓球／テニス／重量挙げ／レスリング／その他のスポーツ」「スポーツ登録とチーム選考」の詳細が記されていた。

第3回国際労働者オリンピックは、世界の労働者の体育とスポーツのデモンストレーションであろう。それは、労働者階級の国際連帯のデモンストレーションであろう。そして等しく、戦争に反対する人民の統一のための／清潔で健康的なスポーツのための闘いを継続しようという決意を表明するための／そして自由と民主主義の擁護のための／デモンストレーションであろう。／すべての参加者は、社会主義運動と労働組合運動の一員とイギリス労働者スポーツ協会の一員だけであろう。イギリス労働者スポーツ協会は、公式に労働組合会議と労働党の庇護のもとにあり、グレート・ブリテンを代表するにふさわしい。／アメリカ合衆国、ベルギー、チェコスロヴァキア、フィンランド、フランス、グレート・ブリテン、オランダ、ハンガリー、ノルウェー、ポーランド、スペインおよびスイスからの競技者を含む、15カ国から2万2千人の参加者が競い合うであろう⁽²⁹⁾。

イギリス労働者スポーツ協会としては、プログラムの最後に記されているように、後は「スポーツ登録とチーム選考」に入るばかりであった。申込用紙の返送は6月1日までとなっており、その後速やかにチーム選考がおこなわれ通知されることになっていた。

(3) アマチュア陸上競技協会との交渉決裂

しかし、再び問題が生じた。イギリス労働者スポーツ協会が加盟するアマチュア陸上競技協会が、アントワープ労働者オリンピックへの陸上競技チームの派遣に反対意思を示したのである。これはイギリス独特のものであろうが、イギリス労働者スポーツ協会は自ら申請してブルジョア・スポーツ組織と見なされるアマチュア陸上競技協会の加盟組織となっていたので、国際スポーツ大会に参加するためには上部団体であるアマチュア陸上競技協会の承認が必要であった。

アマチュア陸上競技協会統括委員会会議では、アントワープ労働者オリンピックを禁止する国

(29) Official Programme of Third International Workers' Olympiad (Organised by the Socialist Workers' Sports International), Antwerp, Sunday, July 25th to Sunday, August 1st, 1937, inclusive British teams and contingent organised by British Workers' Sports Association, Transport House, Smith Square, London, S.W.1 [MRC/MSS.292/808.4/6].

際アマチュア陸上競技連盟からの通信が提示され、国際アマチュア陸上競技連盟の忠告に基づきこの大会への代表派遣を許可し得ないことをハーバート・エルヴィンに伝えることが決定された⁽³⁰⁾。

ハーバート・エルヴィンの交渉によってアマチュア陸上競技協会代表との話し合いが6月4日におこなわれた。イギリス労働者スポーツ協会側からはTUC総評議会書記長ウォルター・シトリーン、労働党執行委員・下院議員フィリップ・ノエル＝ベーカー、イギリス労働者スポーツ協会議長ハーバート・エルヴィン、同合同書記ジョージ・エルヴィンとチャールズ・J・ガンの5名が出席した。この話し合いの様子を伝えた『デイリー・ワーカー』（イギリス共産党機関紙）のスポーツ編集者によれば、「アマチュア陸上競技協会の決定の合意は、アントワープ・オリンピックが政治的な祭典であり、純粋にアマチュア・スポーツの大会ではない、というものであった⁽³¹⁾」。

結局、アマチュア陸上競技協会の決定は覆らず、イギリス労働者スポーツ協会は陸上競技の代表をアントワープに送ることができなかった。オリンピックの中心的種目の陸上競技に代表を派遣できなかったことでイギリス代表団は小規模化してしまったが、それでも競技者の総勢は53名に及んだ⁽³²⁾。ジョージ・エルヴィンは、イギリス労働運動の情報誌『レイバー』の6月号で、「アマチュア陸上競技協会の行為は邪悪なスポーツ禁止令だと公然と非難されたし、ハナン・スウェファァーが『ジョン・ブル』の最新号で簡潔にその立場を要約しているが、彼曰く、『ヒトラーやムッソリーニ、そして他の専制君主が殺意をもって実行したことを、アマチュア陸上競技協会は単にその愚かさの故におこなっている』と、アマチュア陸上競技協会のやり方を批判した⁽³³⁾」。

アントワープ労働者オリンピックへのイギリス代表団は7月24日土曜日にロンドンを発った。パリでのスポーツ大会に参加する人々は8月9日にパリ経由で帰国し、参加しない人々は8月2日に帰国した。アントワープでそれぞれの競技で健闘していたイギリス代表団は、「総評議会はオリンピックで競い合っているイギリス代表団の好結果を心よりお祈り致します」というシトリーンからの電報を受け取った。イギリス代表団を代表して、ジョージ・エルヴィンがお礼の手紙を最終日の夜にシトリーン宛にしたためた。

まとめ

社会主義スポーツインターが主催した3回にわたる国際労働者オリンピックは、労働者アスリートによる国際スポーツ競技会というだけでなく、反戦・平和のための、そして第2回目からはファシズムに反対する示威運動という性格を併せ持った国際祭典であった。

人民オリンピックはカタロニア政府が後援した組織委員会が主催する全国祭典であったが、これはベルリン・オリンピックに対抗する反ファシズム・スポーツ祭典という性格を色濃く持っていた。

(30) Minutes of Meeting of the General Committee held at the Offices of the Association, Crown Chambers, 118, Chancery Lane, London, W.C.2, on Sunday, May 1st, 1937 [The University of Birmingham. Centre for Sports Science and History/NCAL/XVIII/G7].

(31) *Daily Worker*, 5th June 1937, p. 8.

(32) *Labour*, July 1937, p. 275.

(33) *Ibid*, June 1937, p. 251.

つまり、国際労働者オリンピックは、平和を尊び戦争に反対するが、国際政治には干渉しない政治的中立性を重視するブルジョア・スポーツの世界祭典であるオリンピックを拒否して、労働者のための国際祭典を目指したのである。

加えて、「〔人民〕オリンピックは記録を更新しようと努めるものではないけれども、(略)組織委員会は100メートル競走では少なくとも10秒6で走ることが期待される」と報じられたように、反戦・平和、反ファシズムの示威運動という性格を持つ国際労働者オリンピックであっても、労働者アスリートの競技力向上を否定するものではなく、それなくしてはスポーツ祭典としての魅力が減じられることを認めていたのである。つまり、私たちが今大切にしているスポーツ文化の独自性、すなわち競技者の身体能力と巧みな道具操作とを駆使して、コートやフィールドの空間において個別的ないし集団的に産み出される身体表現の美的世界を大切にするという思想が根付きつつあったと言えるだろう。

(あおぬま・ひろゆき 武蔵野美術大学身体運動文化研究室教授)